

不登校の生徒ら受け入れ

高等専修学校設立へ

佐賀市

臨床心理士 加藤さん 来春開校目指す

不登校や発達障害を持つ子どもたちが通う高等専修学校を佐賀市に開校する準備を、同市の臨床心理士加藤雅世子さん(51)が進めている。スクールカウンセラーの経験から「不登校状態を脱しても次の行き場がない子どもの未来を変えたい」と決意。高校卒業の資格が得られるように通信制高校と連携して商業実務を学ぶ一方、社会とのかかわり方などコミュニケーション能力を高める授業も盛り込む。来春開校を目指す。

学校名は「佐賀星生学園」。



元予備校舎の前で「社会に適応できる子どもたちを育てたい」と語る加藤さん(佐賀市多布施4丁目)

佐賀市多布施4丁目の元予備校を使う。情報処理や簿記など就職に有利な資格取得につながる商業実務科(3年課程)を設け、1学年の定員は40人。学費は入学金10万円、年間授業料50万円(施設費、実習費含む)を予定する。別に通信

制高校の学費が必要になる。高校レベルの学習に加え、コミュニケーション能力を高めるため、社会心理学を取り込んだ独自のカリキュラムも設ける。社会福祉施設でのボランティア活動など、社会と

職や進学を視野に、社会に適應できる力をつける学校にする。高校中退者なども受け入れる。

加藤さんは佐賀市の専門学校に勤めながら、佐賀大学院教育心理学コース(修士課程)で学校心理士と臨床心理

士の資格を取得。専門学校を退職後、2007年からは県教委スクールカウンセラーとして不登校などに向き合ってきた。学校には、不登校の生徒の卒業後の進路に悩む先生たちがいた。自分が相談を受けても「自信を持って答えられなかった」という。不登校状態を脱して進学できても、受け入れ態勢が不十分だったり、学力不足で再び不登校になったり、退学するケースも多かったという。

開校の資金は加藤さんの自己資金と借り入れで賄う。教員を3人以上、事務員、学校

医を1人以上確保する。学法人の理事長は予備校の校だった杠研一郎氏に就任を頼じた。夏ごろから生徒を予定で、加藤さんは「スクールカウンセラー時代、不登校状態を脱しても、次にパッタチする相手が分からなかった。この学校が子どもたちの受け皿になるようにしたい」と話す。

(古賀史)